



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/15 (月)	▲ 100	+ 85,500	+ 85,400	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人) 年金定時払い	CP等買入 ▲ 200 社債等買入 ▲ 700 国債補充供給 + 33,200	国債買入 + 12,900 CP等買入 + 4,000	米: 小売売上高 (3月)
4/16 (火)	トン	+ 7,000	+ 7,000				
4/17 (水)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000	流動性供給	共通担保 ▲ 8,000		日: 貿易収支 (3月) 欧: CPI (3月)
4/18 (木)	▲ 1,000	+ 4,000	+ 3,000				日: 野口日銀審議委員が佐賀県金融経済懇談会で講演
4/19 (金)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	流動性供給			日: CPI (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債発行等により、前営業日対比7,500億円減少の557兆500億円から始まった。その後、国債買入オペ等の要因により559兆5,400億円まで上昇したが、税・保険揚げ、国債発行等の要因により減少し、12日は、572兆2,300億円 (速報) で越週となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後も取り手の調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3M物を中心に0.14%~0.22%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、18日に野口日銀審議委員の講演、19日にCPI (3月) の公表、海外では15日に米小売売上高 (3月) の公表、17日に欧CPI (3月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.077
1M	0.07 ~ 0.20
2M	0.10 ~ 0.30
3M	0.10 ~ 0.30
6M	0.15 ~ 0.30

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

<レポ>

足許GC取引は週末まで+0.02%~+0.05%で推移。11日の取引では+0.06%台まで上昇し、3m短国の入札があった12日の取引では一時+0.09%近辺の出合いが見られた。後場には再び+0.06%~+0.07%に低下し、越週した。SC取引は2年438~459回債、5年149~167回債、10年350~374回債、20年180~187回債、30年65~82回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約8,500億円で、週間償還額の約7,100億円を上回った。発行市場は、建設や石油製品、小売業等の業種にて大型案件が実施され、マーケットは活況であった。発行残高は先週末時点の21兆8,818億円から4月11日時点で22兆1,371億円に増加した。発行レートは、銘柄や期間等によりばらつきが見られ、0.10%台半ば~0.2%台での出合いが見られた。10日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.100% (前回0.080%)、平均落札レート0.129% (前回0.124%)と按分・平均落札レートが共に前回比で上昇した。来週の償還額は、約6,100億円となっている。発行市場は、大口の償還案件の継続発行が見込まれ、活況なマーケットとなると思われる。発行レートは、引き続き、目線感の落ち着きどころを探る展開が見込まれる。

<TDB>

9日の6M (1224回債) の入札は、最高落札利回り0.0438% (前回債0.0418%)、平均落札利回り0.0418% (前回債0.0259%)となった。12日の3M (1223回債) の入札は、最高落札利回り0.0111% (前回債0.0110%)、平均落札利回り0.0040% (前回債0.0047%)となった。来週は4月18日に1Y、4月19日に3Mの入札が予定されている。